

愛 媛 県 病 院 事 業 会 計

第 5 愛 媛 県 病 院 事 業 会 計

1 概 要

(1) 事業の実施状況

病院事業会計に属する病院は、中央、今治、南宇和及び新居浜の4病院である。

ア 病院の利用状況

病院の利用状況は次表のとおり、入院患者延べ 392,937人、外来患者延べ 758,413人、計 1,151,350人となっており、前年度に比べて入院患者は延べ 1,055人の減少、外来患者は延べ 12,489人の増加、計 11,434人増加している。

病床数は 1,659床で、前年度と同数となっており、病床利用率は 64.89%と前年度（65.07%）より 0.18ポイント低下している。

病院名	入 院 ・ 外 来 別	病 床 数	平成29年度 (A)			平成28年度 (B)			増 減 (△) (A) - (B)		
			延 患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	病 床 利 用 率	延 患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	病 床 利 用 率	延 患 者 数	1 日 平 均 患 者 数	病 床 利 用 率
中央	入 院	827	人	人	%	人	人	%	人	人	ポイント
	外 来		225,164	616.9	74.59	226,798	621.4	75.13	△ 1,634	△ 4.5	△ 0.54
	計		404,030	1,655.9		400,729	1,649.1		3,301	6.8	
今治	入 院	320	68,578	187.9	58.71	68,297	187.1	58.47	281	0.8	0.24
	外 来		146,796	601.6		141,857	583.8		4,939	17.8	
	計		215,374	789.5		210,154	770.9		5,220	18.6	
南宇和	入 院	199	37,708	103.3	51.91	33,476	91.7	46.09	4,232	11.6	5.82
	外 来		82,335	337.4		78,782	324.2		3,553	13.2	
	計		120,043	440.7		112,258	415.9		7,785	24.8	
新居浜	入 院	313	61,487	168.5	53.82	65,421	179.2	57.26	△ 3,934	△ 10.7	△ 3.44
	外 来		125,252	513.3		124,556	512.6		696	0.7	
	計		186,739	681.8		189,977	691.8		△ 3,238	△ 10.0	
合計	入 院	1,659	392,937	1,076.6	64.89	393,992	1,079.4	65.07	△ 1,055	△ 2.8	△ 0.18
	外 来		758,413	3,108.2		745,924	3,069.7		12,489	38.5	
	計		1,151,350	4,184.8		1,139,916	4,149.1		11,434	35.7	

イ 施設及び医療機器の整備状況

(7) 施設の整備状況

適切な施設機能を維持し患者及び職員の環境改善を図るため、中央病院においては管理棟冷却塔更新工事を今治病院においてはエレベーター改修工事及び駐車場発券機等更新工事を実施した。

(4) 医療機器の整備状況

医療水準の高度化並びに診療及び診療支援業務の合理化・効率化を図るため、中央病院及び今治病院の超音波診断装置をはじめとして、南宇和病院のX線骨密度測定装置、新居浜病院のDRシステムなど総額 5億 3,277万円で 169点の機器を整備している。

(2) 経営状況

経営状況（消費税等を含まない額）は、医業収益に医業外収益を加えた総収益が 45,011,177,116円、医業費用に医業外費用を加えた総費用が 44,554,695,626円で、差引き 456,481,490円の純利益を生じており、総収支比率（総収益÷総費用×100%）は 101.02%となっている。

前年度（217,620,402円の純利益）と比較すると、純利益は 238,861,088円（109.76%）増加し、総収支比率も 0.53ポイント上昇している。

また、累積欠損金は 19,903,634,715円となっており、前年度より 456,481,490円減少している。

2 予算及び決算の状況（決算報告書）

予算額に対する決算額及びその内容は、次のとおりである。

(1) 収益的収入及び支出

収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予算額に比べ 決算額の増減(△)	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	%	
病院事業収益	48,564,465,000	45,095,121,556	△ 3,469,343,444	92.86	
医業収益	41,994,035,000	38,544,236,052	△ 3,449,798,948	91.79	
医業外収益	6,568,430,000	6,550,885,504	△ 17,544,496	99.73	
特別利益	2,000,000	0	△ 2,000,000	0.00	

病院事業収益決算額は 45,095,121,556円で、予算額に比べて 3,469,343,444円の減収となっており、執行率は 92.86%となっている。

医業収益の主なものは入院収益 26,748,747,436円である。

支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B)／(A)	備 考
	円	円	円	円	%	
病院事業費	48,096,222,000	43,804,836,626	0	4,291,385,374	91.08	
医業費用	47,035,950,000	42,944,467,100	0	4,091,482,900	91.30	
医業外費用	1,050,772,000	860,369,526	0	190,402,474	81.88	
特別損失	8,000,000	0	0	8,000,000	0.00	
予備費	1,500,000	0	0	1,500,000	0.00	

病院事業費決算額は 43,804,836,626円で、4,291,385,374円の不用額を生じており、執行率は 91.08%となっている。

医業費用の主なものは、給与費 21,919,928,829円、材料費 10,320,661,175円である。

医業費用の不用額の主なものは、給与費、材料費である。

(2) 資本的収入及び支出

収 入

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	予算額に比べ 決算額の増減(△)	執行率 (B)/(A)	備 考
	円	円	円	%	
資 本 的 収 入	5,574,049,000	5,447,049,069	△ 126,999,931	97.72	
企 業 債	741,500,000	614,400,000	△ 127,100,000	82.86	
国 庫 補 助 金	1,000	0	△ 1,000	0.00	
他 会 計 か ら の 借 入 金	3,000,000,000	3,000,000,000	0	100.00	
他 会 計 か ら の 負 担 金	1,832,548,000	1,832,648,000	100,000	100.01	
固 定 資 産 売 却 代 金	0	1,069	1,069	—	

資本的収入決算額は 5,447,049,069円で、予算額に比べて 126,999,931円の減収となっており、執行率は 97.72%となっている。

支 出

区 分	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度繰越額	不用額	執行率 (B)/(A)	備 考
	円	円	円	円	%	
資 本 的 支 出	8,025,673,000	7,620,787,714	50,614,000	354,271,286	94.96	
病 院 設 備 費	1,544,071,000	1,184,186,108	50,614,000	309,270,892	76.69	
企 業 債 償 還 金	3,188,602,000	3,188,601,606	0	394	100.00	
他 会 計 か ら の 借 入 金 償 還 金	3,293,000,000	3,248,000,000	0	45,000,000	98.63	

資本的支出決算額は 7,620,787,714円で、50,614,000円の翌年度繰越額、354,271,286円の不用額を生じており、執行率は 94.96%となっている。

なお、資本的収入額が資本的支出額に不足する額は損益勘定留保資金で補てんしている。

3 経営成績（損益計算書）

当年度の経営成績は別表1のとおりで、その内容は次のとおりである。

当年度純利益は 456,481,490円となっており、前年度に比べて 238,861,088円（109.76%）増加している。

(1) 医業損失

医業収益 38,476,831,233円に対し、医業費用は 42,418,802,648円で、差引き 3,941,971,415円の医業損失を生じており、前年度に比べて 333,806,924円（7.81%）減少している。

医業収益は、前年度に比べて 529,484,436円（1.40%）増加している。これは主として入院収益が減少した一方で、外来収益が増加したことによるものである。

医業費用は、前年度に比べて 195,677,512円（0.46%）増加している。これは給与費が減少した一方で、主として材料費及び経費が増加したことによるものである。

(2) 経常利益

医業損失に医業外収益 6,534,345,883円を加え、医業外費用 2,135,892,978円を差し引いた経常利益は 456,481,490円となっており、前年度に比べて 238,861,088円（109.76%）増加している。

医業外収益は、前年度に比べて 82,444,063円（1.25%）減少している。これは長期前受金戻入が増加した一方で、主として一般会計からの負担金が減少したことによるものである。

医業外費用は、前年度に比べて 12,501,773円（0.59%）増加している。これは主として支払利息が減少した一方で、非課税売上分消費税が増加したことによるものである。

(3) 当年度純利益

経常利益の 456,481,490円が当年度純利益となっており、前年度に比べて 238,861,088円（109.76%）増加している。

なお、病院別損益の状況は別表3のとおりである。

4 剰余金の状況

当年度における剰余金の増減については、次のとおりである。

(1) 資本剰余金

当年度末残高は 319,646,586円、前年度末残高と同額である。残高の内容は受贈財産評価額である。

(2) 未処理欠損金

前年度繰越欠損金 20,360,116,205円から、当年度純利益 456,481,490円を加えた当年度末の未処理欠損金残高は 19,903,634,715円となっている。

5 財政状態（貸借対照表）

当年度末における財政状態は別表2のとおりで、その内容は次のとおりである。

資産は 51,836,107,727円となっており、前年度に比べて 2,007,719,544円（3.73%）減少している。

負債は 64,372,051,478円、資本は △12,535,943,751円となっており、前年度に比べて負債は 2,464,201,034円（3.69%）減少し、資本は 456,481,490円（3.51%）増加している。

(1) 資 産

ア 固定資産は 41,886,409,959円で、資産合計に対する構成比率は 80.81%となっており、前年度に比べて 1,557,413,046円（3.58%）減少している。これは主としてリース資産が増加した一方で、主として病院設備が減少したことによるものである。

イ 流動資産は 9,949,697,768円で、資産合計に対する構成比率は 19.19%となっており、前年度に比べて 450,306,498円（4.33%）減少している。これは主として未収金が増加した一方で、主として現金預金が減少したことによるものである。

なお、未収金 7,876,445,184円のうち医業未収金は 7,755,768,141円で、その内容は、保険者負担分 7,216,228,297円、個人負担分 539,539,844円となっており、個人負担分のうち過年度未収金は 375,966,621円となっている。

(2) 負 債

ア 固定負債は 48,614,867,351円で、負債資本合計に対する構成比率は 93.79%となっており、前年度に比べて 1,514,022,015円（3.02%）減少している。これは、主としてリース債務が増加した一方で、建設改良費等の財源に充てるための企業債が減少したことによるものである。

イ 流動負債は 8,425,634,441円で、負債資本合計に対する構成比率は 16.25%となっており、前年度に比べて 830,646,345円 (8.97%) 減少している。これは、主としてリース債務が増加した一方で、建設改良費等の財源に充てるための企業債、未払金が減少したことによるものである。

ウ 繰延収益は 7,331,549,686円で、負債資本合計に対する構成比率は 14.14%となっており、前年度に比べて 119,532,674円 (1.60%) 減少している。

(3) 資 本

ア 資本金は 7,048,044,378円で、負債資本合計に対する構成比率は 13.60%となっており、前年度と同額である。

イ 剰余金の内訳は、資本剰余金 319,646,586円、欠損金 △19,903,634,715円となっている。

6 キャッシュ・フロー（キャッシュ・フロー計算書）

当年度におけるキャッシュ・フローは別表4のとおりで、その内容は次のとおりである。

業務活動によるキャッシュ・フローは 1,646,563,955円、投資活動によるキャッシュ・フローは 1,071,149,400円、財務活動によるキャッシュ・フローは △3,287,731,479円となっている。資金期末残高は 2,074,009,818円となっており、前年度に比べて 570,018,124円 (21.56%) 減少している。